

# 国語問題

二〇二四年二月五日

自 一一・三〇  
至 一二・三〇

## 答案作成上の注意

一、国語のページは

国	1
---	---

から

国	15
---	----

までである。

二、問題は

問題一
-----

から

問題四
-----

までである。

一、二は全員が解答、三、四はどちらか一題を選択して解答すること。

三、解答用紙は、一枚である。

四、解答は、すべて解答用紙の指定された欄に、記入すること。

五、受験番号は、指定された箇所には必ず記入し、氏名その他解答以外のことを解答用紙に書かないこと。

## 問題一

次の文章を読み、問いに答えよ。

諸橋轍次はその九十九年の生涯にわたって、「行くに徑に由らず」ということばを座右の銘としていた。大道をまっすぐに進むという意味で、『論語』の「雍也第六」が出典である。武城の代官になった子游という人物が、師の孔子から、「おまえは部下に立派な人材を得たか」と問われ、「澹台滅明という者あり。行くに徑に由らず、云々」と答えたという。

徑は、小路であり、又近道である。周の時代には、役人は周道という公の道を歩行すべきものとされた。しかし公の道はとかく時間がかかりがちであるため、多く人は徑に由ったのである。人の世に処する場合にも、徑に由る方が早手廻しと考えられる場合が少なくないが、しかしこれを辿れば、多くは行き詰まりに遭遇する。澹台滅明が行くに徑に由らぬのは、彼が人生に処して大道を濶歩する性格の持ち主であることを示したものである。

（諸橋轍次『論語の講義』一九五三）

大道をまっすぐに進むがよい。それは、よしまわりみちには見えても、平らで正しい。これに反し、近道とも見え、変化の魅力をもっている、小道はやがて行きづまりがくる。

（同『中国古典名言事典』一九七三）

古典の注解には、その人の人生観が色濃く反映される。他の注釈書が、たとえば「大通りを通って抜け道をしない。……人物の公正なことを示す。行為についてのヒュ的な意味もある」などと、至極あっさり片付けてしまっているのと比較してみれば、諸橋轍次がいかにこの段に思いをこめているか、誰の眼にも明らかだろう。

それにしても、人生に処して大道を濶歩するというのは、いかにも明治人らしいスケールの大きさが感じられる。明治は学問の世界において、おおくの巨人をハイシュツした<sup>②</sup>。辞書編纂者だけを見ても、『言海』の大槻文彦、上田万年・松井簡治の『大日本国語辞典』、物集高見の『広文庫』、『斎藤和英辞典』の斎藤秀三郎、『大日本地名辞書』の吉田東伍その他、枚挙に<sup>③</sup>

とまがないが、これらの人々は生涯を一冊の辞書編纂に捧げつくしたという点で共通している。近代という時代が学問の基礎づくりのための時代であり、その見取り図を描くために辞書を必要としたためである。必然的にそれは前例のない大がかりなものになり、一生を費やしてもなお足りない作業となった。現代のように既成のデータを積み上げてコンピューター処理をするような編集方式とはちがって、すべてが最初からの、しかも手作業だけに頼らなければならない苦しい仕事であった。このような仕事をする者のホコリ<sup>④</sup>として、あるいは苦闘に満ちた日常の支えとして、「行くに徑に由らず」というような座右銘が意味をもったということになる。

しかし、そこにはきわめて創意のある、一つの分野における総合的、統一的業績を目ざせという意味も含まれていると思われる。とすれば、細部にかかわりすぎて全体のテンポウを失いがちな現代の学問への、頂門の一針<sup>⑤</sup>ということもいえるのである。現代人にとっては、辞書づくりに生涯を費やすなどということは考えにくい<sup>c</sup>が、かつてそのような生き方があり、その成果がいまなお私たちを裨益<sup>ひえき</sup>してやまない。諸橋轍次の生涯と業績は、私たちに人生に関する根源的な主題を投げかけているのではないだろうか。

出典…紀田順一郎『大漢和辞典』を作る（紀田順一郎編『大漢和辞典』を読む）

（大修館書店、一九八六年）

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直せ。

問二 傍線部A「それ」の指すものを本文中から2つ書き抜け。

問三 傍線部B「前例のない大がかりなものになり、一生を費やしてもなお足りない作業」を具体的に説明した部分について、最初と最後の5文字を書け。

問四 傍線部C「諸橋轍次の生涯と業績は、私たちに人生に関する根源的な主題を投げかけているのではないだろうか」とある。筆者の考える「人生に関する根源的な主題」とは、どのようなものか。次のア～オから最も適当なものを選べ。

- ア 多角的な視点から興味の幅を広げ、様々な物事に意欲的に挑戦すること
- イ 目標を定め、それに向かって、根気強くやり抜こうと努力すること
- ウ 与えられた課題に真摯に取り組み、常に最善を尽くそうとすること
- エ 自らの人生を大局的に見つめ、時間をかけながらじっくり進むこと
- オ 他から制限や束縛を受けず、自分の意思に従って自由に行動すること

## 問題二

次の文章を読み、問いに答えよ。

この個人主義という意味に誤解があつてはいけません。ことにあなたがたのようなお若い人に対して誤解を吹き込んで私が見ませんから、その辺はよくご注意を願っておきます。時間がせまっているからなるべく簡単に説明致しますが、個人の自由は先刻お話しした個性の發展上極めて必要なものであつて、その個性の發展がまたあなたがたの幸福に非常な關係を及ぼすのだから、どうしても他に影響のない限り、僕は左を向く、君は右を向いても差支えないくらい自由は、自分でも把持し、他人にも付与しなくてはなるまいかと考えられます。それがとりも直さず私のいう個人主義なのです。

金力権力の点においてもその通りで、俺の好かないやつだから畳んでしまえとか、気に喰わない者だからやつつけてしまえとか、悪い事もないのに、ただそれらを濫用したらどうでしょう。人間の個性はそれで全く破壊されると同時に、人間の不幸もそこから起こらなければなりません。

たとえば私が何も不都合を働かないのに、単に政府に気に入らないからと云つて、警視總監が②ジユンサに私の家を取り巻かせたらどんなものでしょう。警視總監にそれだけの権力はあるかも知れないが、徳義はそういう権力の使用を彼に許さないのであります。または三井とか岩崎とかいう豪商が、私を嫌うというだけの意味で、私の家の召使いを③バイシウして事ごとに私に反抗させたなら、これまたどんなものでしょう。もし彼らの金力の背後に④人格というものが多少でもあるならば、彼らはけつしてそんな無法を働く気にはなれないのであります。

こうした④ヘイガイはみな道義上の個人主義を理解し得ないから起るので、自分だけを、権力なり金力なりで、一般に押し広めようとするわがままにほかならぬのであります。だから個人主義、私のここに述べる個人主義というものは、けつして俗人の考えているように国家に危険を及ぼすものでも何でもないのです、他の存在を尊敬すると同時に自分の存在を尊敬するというのが私の解釈なのですから、立派な主義だろうと私は考えているのです。

もつと解りやすく云えば、党派心がなくつて理非がある主義なのです。朋党を結び団隊を作つて、権力や金力のために盲動

しないという事なのです。それだからその裏面には人に知られない淋しさも潜んでいるのです。すでに党派でない以上、我は  
私の行くべき道を手に行きたくだけで、そうしてこれと同時に、他人の行くべき道を妨げないのだから、ある時ある場合には人  
間がばらばらにならなければなりません。そこが淋しいのです。私がかつて朝日新聞の文芸欄を担任していた頃、だれであつ  
たか、三宅雪嶺さんの悪口を書いた事がありました。もちろん人身攻撃ではないので、ただ批評に過ぎないのです。しかもそ  
れがたつた二三行あつたのです。出たのはいつごろでしたか、私は担任者であつたけれども病気をしたからあるいはその病氣  
中かも知れず、または病氣中でなくって、私が出して好いと認定したのかも知れません。とにかくその批評が朝日の文芸欄に  
載つたのです。すると「日本及び日本人」の連中が怒りました。私の所へ直接にはかけ合わなかつたけれども、当時私の下働  
きをしていた男に取消しを申し込んで来ました。それが本人からではないのです。雪嶺さんの子分——子分というとは何か  
博奕打ちばくちのようでおかしいが、——まあ同人といったようなものでしょう、どうしても取り消せというのです。それが事実の  
問題ならもつともですけれども、批評なんだから仕方がないじゃありませんか。私の方ではこちらの自由だというよりほかに  
途はないのです。しかもそうした取消を申し込んだ「日本及び日本人」の一部では毎号私の悪口を書いている人があるのだか  
らなおのこと人を驚かせるのです。私は直接談判はしませんでしたけれども、その話を間接に聞いた時、変な心持ちがしまし  
た。というのは、私の方は（Ⅰ）主義でやっているのに反して、向うは（Ⅱ）主義で活動しているらしく思われた  
からです。当時私は私の作物をわるく評したもののさえ、自分の担任している文芸欄へ載せたくらいですから、彼らのいわゆる  
同人なるものが、一度に雪嶺さんに対する評語が氣に入らないと云つて怒つたのを、驚きもしたし、また変にも感じました。  
失礼ながら時代後れだとも思いました。封建時代の人間の団隊のようにも考えました。しかしそう考えた私はついに一種の淋  
しさを脱却する訳に行かなかつたのです。私は意見の相違はいかに親しい間柄でもどうする事もできないと思つていましたか  
ら、私の家に入りをする若い人達に助言はしても、その人々の意見の発表に抑圧を加えるような事は、他に重大な理由のな  
い限り、けつしてやつた事がないのです。私は他人の存在をそれほど認めている、すなわち他にそれだけの自由を与えてい  
るのです。だから向うの氣が進まないのに、いくら私が汚辱を感じずるような事があつても、けつして助力は頼めないのです。

そこが個人主義の淋しさです。

出典…夏目漱石「私の個人主義」(青空文庫)

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直せ。

問二 傍線部A「人格」のここでの意味として適切なものを次の①～④より一つ選べ。

- ① 揺るぎない性格
- ② 他にない個性
- ③ 優れた人柄
- ④ 社会的特性

問三 傍線部B「党派心がなくって理非がある主義」と筆者が述べる主義にはどんな自由があると筆者は述べているか。本文より25字前後で抜き出し、「～自由」としてまとめよ。

問四 傍線部C「人に知られない淋しさ」と筆者が主張する理由を次の中から一つ選べ。

- ① 大衆によらず金力や権力からも距離を置くことで、誰にも理解されない苦しみを味わわなければならないから。
- ② 自分には何の落ち度もないのに、危険人物であるという誤解を受けたまま世間の批判を浴びる覚悟が必要であるから。
- ③ 他人の存在を認め自由を与えるということは、困ったことがあっても人に助力を頼まず一人でその責任を負う必要があるから。
- ④ 人間はもともと孤独であるという考えが前提となっているため、どこまで行っても一人で存在の苦しみを抱える勇気が必要になるから。

問五 空欄（Ⅰ）（Ⅱ）にふさわしい語句を本文からそれぞれ漢字2文字で補え。

問六 筆者の主張として適切なものを次の中から一つ選べ。

- ① 自分が自分らしくあるためには、まず個人的淋しさを脱却すべきだ
- ② 若い人々の意見にはよく耳を傾け、彼らが自由に意見を言えるようにすべきだ
- ③ 相手が団体の力で個人の考えを曲げるように迫ってきても応じるべきではない
- ④ どんなに親しい間柄でも、親しき仲にも礼儀ありという気持ちで距離を置くべきだ

## 問題三

次の文章を読み、問いに答えよ。

絵本には、①（作家と画家を兼ねる）単独の絵本作家が創作したもの、②ことばを書く作家と絵を描く画家がチームを組んでつくったもの、③作家と画家が相談なしで別々につくったもの——の三種類がある。このそれぞれの場合、絵とことばとのバランスはどのようになっていいるのだろうか。できあがった絵本は、いったい誰の本だといえはいいのだろうか。ここではまず、このようないろいろな関係が<sup>A</sup>つくりだした作品をケンシヨウ<sup>①</sup>してみよう。

絵本が誰の作品なのかということが問題になるのは、それが「ことばによる伝達」と「絵による伝達」のあいだにある複雑な関係からできているからであり、両者の関係を無視できないからである。ことばと絵という二つの異なる伝達方法のあいだには力関係のかけひきが起こり、その相互作用のなかからいろいろなものが生まれてくる。絵による表現が絵本のすべてであると考えるならば、絵だけを解釈すればこと足りる。<sup>D</sup> 作品の製作過程に関わる人が増えれば増えるほど、絵とことばとの関係を説明するのはむずかしくなる。さらに、複数の人々がお互いに相談せずに作品づくりにたずさわった場合には、ことさら解釈がむずかしくなってくる。作家と画家が別の人で、それぞれが別の意図をもっていたとすると、その作品の解釈が「正しい」のかどうかはきわめて曖昧になり、「これ」と定めることは無理だということになる。

子どものころに大好きでよく知っていた絵本に、当時のものとはちがう絵がついているのを見て、おおいに違和感を覚えたという経験は多い。子どもたちは、絵本を丸ごと受けとめている。<sup>B</sup> 私たちは、最初は「読み聞かせ」というかたちで本にふれることが多いので、<sup>C</sup> □覚と□覚の刺激が混じりあい、ことばのひびきと絵を一致させて受けとめる。そのうち自分で読めるようになると、今度はことば（文字）のかたちを認識し、絵と一致させる。だから、ビアトリクス・ポターの本に別の画家が描いた絵がついていると、それはもうポターの絵本ではなくなるし、ドクター・スースの『キャットインザハット』のロシア語版のように、ロシアの画家が絵をつけていると、それはもうセオドア・ガイゼルのもものではなくなる。『きかんぼぼうやのうみのたび』（原題 *Den vida bebrisan*）のアメリカ版は、「そこまでイヤクしてしまっているのか？」と問い質したくなる

ほど、原書とは内容構成が変わっている。絵の順序も変わっているし、削除されている絵もある。 E 絵のなかの一部が消えているところまである。こうなってくると、この本はいったい誰のものだといえはいいのだろうか。

ジョン・ステイブンスは、 H 「よくできていると思える絵本」には、ことばと絵とのあいだに次のような関係があると述べている。

「よくできている」というために重要なものは（ことばと絵とのあいだにくいちがいをつくりだして、さらにそれを利用する能力である。そうすれば、ことばと絵は、それぞれのちがいに基づく物語と意味をお互いに補いあい、いっしょになつて創出するのだ。個々の絵は、文法も統語法もなければ、時間の順に流れていく筋もなく、時間のなかのある特定の瞬間をトウケツするものなので、ひとつの枠のなかで複数の出来事を表すことはめつたにない。そのため、このことばと絵との関係は、異なつたかたちでコウチクされた言説のあいだの関係といえる。ことばと絵は、異なる内容を伝えているとまではいかなくても、その伝え方がちがっているのだ。 F 読者は複雑な手順をふんで解読していかねばならぬ。ばらばらの出来事がことばの練習のように順不同でつらなっているだけで、それだけでははつきりとしたひとつの単純な意味しか期待できない。ように見える作品でも、それなりの解読法を身につければ、ちがう種類の意味が隠れていることがわかってくる。その奥深さに意味があるのだ。

このステイブンスのコメントは、本書にとつても大切なポイントを示している。ことばと絵との「にくいちがい」に近づくには、どうしたらいいのか。ことばと絵が「お互いに補い」あい、「それぞれのちがいに基づく物語と意味」を「創出する」のは、そのくいちがいがあるからなのか、 G 作家と画家がチームとして仕事をしていないためなのか、または、異なる画家が絵をつけていれば画家の数だけの種類の絵本が生まれるせいなのか、作家と画家が何人もいるためにことばと絵が一致せず、そこに混乱と曖昧さが起こってくるせいなのか——など、いろいろな場合が考えられる。

出典…マリア・ニコラエヴァ

キャロル・スコット 訳 川端有子 南隆太

『絵本の力学』二〇一一年 玉川大学出版部

問一 傍線部①～④のカタカナを漢字に直せ。

問二 なぜ、筆者は、傍線部A「できあがった絵本は、いったい誰の本だといえはいいのだろうか」と思ったのか。適切なものを選び、番号で答えよ。

- ① 絵とことばそれぞれの伝達方法の関係が複雑だから
- ② 作者と出版社それぞれの思惑が異なるから
- ③ 絵が作者と違うことでその絵本の権利問題が生じるから
- ④ 絵本をつくる側と絵本の読む側で思いが異なることがあるから

問三 傍線部B「絵本を丸ごと」とは具体的に何を受けとめるといふことか。適切なものを選び、番号で答えよ。

- ① 絵本の作者の思いのすべて
- ② 絵本を読んでもくれるすべての人の思い
- ③ 絵本を読んでもくれることばのひびきとことばと絵のすべて
- ④ 絵本が置いてある書店や図書館の空間

問四 傍線部Cには二つの感覚が入る。適切なものを選び、番号で答えよ。

- ① 嗅覚と直感
- ② 視覚と聴覚
- ③ 味覚と聴覚
- ④ 触覚と視覚

問五



D・E・F・Gには次の4つの接続詞が入る。適切なものをそれぞれ選び、番号で答えよ。

- ① しかし
- ② そのうえ
- ③ そのため
- ④ それとも

問六 傍線部H「よくできていると思える絵本」とは、この文章の場合どのような本であるか。適切なものを選び、番号で答えよ。

- ① 子どもの時に読んだ記憶が大人になってもずっと残る絵本
- ② ことばと絵が作り出す物語が食い違い、その違いを読み利用できる絵本
- ③ 絵描きと作家が協力しあって、作り出した絵本
- ④ 解読法が明示されている絵本

## 問題四

次の文章を読み、問いに答えよ。

すへて哥てふものは、打となへたるさまやすらかに、け高きをよしとし、巧みのおもしろきをは次とす、そのたくみのふつにあしといふにはあらねと、もとより心高くことはうるはしきにはたけの及はぬわさ也、しかるを、よき哥の心をまねはぬ人は、いかてめつらしからん、いかにすぐれたることはんなとのみ思ひて、心をもすかたをもわすれ行故に、いやしけにのみおち行めり、はたらきかましきは、いやしに近しとおもひて、心やさしくすかたけたかきをこひねかふへきなり、よりて常に見つゝ、かたとすへき古き世の哥ともこそあり、後の世の哥を見る時は、かならずいやし成侍る也、たゝ古今哥集を朝夕に見て、それか中にもなたらかにて、ことわりの明らかなるさまを、われもかく様によまんとねかひて、よみうつし給へ、いまだしきほとにては、中にもふし有所のみめのつきて、何となくいひつゝけたるに、よろしきか有ことはおもひたらぬものぞ、さる事をもよく心して見給ふにつけて、おもひ得らるゝもの也、よりてふし有ことをはおきて、すへてはしらへを（A）を先とする事也、

出典…賀茂真淵「縣居書簡補遺」『賀茂真淵全集第二十三卷』（一九九二年）

問一 傍線部A「ふつに」の意味を次の①～③から選び記号で答えよ。

- ① 多少は      ② 完全に      ③ 普通に

問二 傍線部B「たけの及はぬわさ」の内容を次の①～③から選び記号で答えよ。

- ① たくみのおもしろき
- ② 心やさしくすかたけたかき
- ③ 打となへるさま

問三 傍線部C「よき哥」は具体的に何を指すか。次の①～③から選び記号で答えよ。

- ① すへて哥てふもの
- ② 古き世の哥
- ③ 後の世の哥

問四 傍線部D「いやし」・E「あり」・F「いやし」をそれぞれ活用させ、正しい形に直せ。

問五 傍線部G「古今哥集」の「仮名序」の著者を漢字で答えよ。

問六 傍線部H「いまだしき」の意味を次の①～③から選び記号で答えよ。

- ① 未熟な
- ② 今だに
- ③ 完全な

問七 傍線部I「ふし有所」の意味を次の①～③から選び記号で答えよ。

- ① 曲調の変わり目がある所
- ② 植物の節のある所
- ③ 目立つ特徴のある所

問八 (A)に入る適当な語句を次の①～③から選び記号で答えよ。

- ① 打となへる
- ② よみうつす
- ③ いひつゝける